

ルカによる福音書

Luke

新約聖書

第1章

- 1 私たちの間で成し遂げられた事柄については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人たちが私たちに伝えたとおりのことを、多くの人がまとめて書き上げようとすでに試みています。
- 2 [前節と合節]
- 3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べていますから、尊敬するテオフィロ様、あなたのために、順序立てて書いて差し上げるのがよいと思います。
- 4 それによって、すでにお受けになった教えが確かであることを、あなたによく分かっていただきたいと思います。
- 5 ユダヤの王ヘロデの時代に、アビヤの組の者でザカリヤという名の祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。
- 6 二人とも神の前に正しい人で、主のすべての命令と掟を落度なく行っていた。
- 7 しかし、彼らには子がいなかった。エリサベツが不妊だったからである。また、二人ともすでに年をとっていた。
- 8 さてザカリヤは、自分の組が当番で、神の前で祭司の務めをしていたとき、
- 9 祭司職の慣習によってくじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。
- 10 彼が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。
- 11 すると、主の使いが彼に現れて、香の祭壇の右に立った。
- 12 これを見たザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われた。
- 13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。
- 14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。
- 15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、
- 16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。
- 17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」
- 18 ザカリヤは御使いに言った。「私はそのようなことを、何によって知ることができるでしょうか。この私は年寄りですし、妻ももう年をとっています。」
- 19 御使いは彼に答えた。「この私は神の前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この良い知らせを伝えるために遣わされたのです。
- 20 見なさい。これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私のことばを、あなたが信じなかったからです。」
- 21 民はザカリヤを待っていたが、神殿で手間取っているのので、不思議に思っていた。
- 22 やがて彼は出て来たが、彼らに話をすることができなかった。それで、彼が神殿で幻を見たことが分かった。ザカリヤは彼らに合図をするだけで、口がきけないままであった。
- 23 やがて務めの期間が終わり、彼は自分の家に帰った。

- 24 しばらくして、妻エリサベツは身ごもった。そして、「主は今このようにして私に目を留め、人々の間から私の恥を取り除いてくださいました」と言い、五か月の間、安静にしていた。
- 25 [前節と合節]
- 26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。
- 27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。
- 28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」
- 29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。
- 30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。
- 31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。
- 32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。
- 33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」
- 34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」
- 35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。
- 36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。
- 37 神にとって不可能なことは何もありません。」
- 38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。
- 39 それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。
- 40 そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。
- 41 エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。
- 42 そして大声で叫んだ。「あなたは女の中で最も祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。
- 43 私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう。
- 44 あなたのあいさつの声が私の耳に入った、ちょうどそのとき、私の胎内で子どもが喜んで躍りました。
- 45 主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」
- 46 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、
- 47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。
- 48 この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

- 49 力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの、
- 50 主のあわれみは、代々にわたって主を恐れる者に及びます。
- 51 主はその御腕で力強いわざを行い、心の思いの高ぶる者を追い散らされました。
- 52 権力のある者を王位から引き降ろし、低い者を高く引き上げられました。
- 53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返されました。
- 54 主はあわれみを忘れずに、そのしもベイスラエルを助けてくださいました。
- 55 私たちの父祖たちに語られたとおり、アブラハムとその子孫に対するあわれみをいつまでも忘れずに。」
- 56 マリアは、三か月ほどエリサベツのもとにとどまって、家に帰った。
- 57 さて、月が満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。
- 58 近所の人たちや親族は、主がエリサベツに大きなあわれみをかけてくださったことを聞いて、彼女とともに喜んだ。
- 59 八日目になり、人々は幼子に割礼を施すためにやって来た。彼らは幼子を父の名にちなんでザカリヤと名づけようとしたが、
- 60 母親は「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。
- 61 彼らは彼女に「あなたの親族には、そのような名の人はいません」と言った。
- 62 そして、幼子にどういう名をつけるつもりか、身振りで父親に尋ねた。
- 63 すると彼は書き板を持って来させて、「その子の名はヨハネ」と書いたので、人々はみな驚いた。
- 64 すると、ただちにザカリヤの口が開かれ、舌が解かれ、ものが言えるようになって神をほめたたえた。
- 65 近所に住む人たちはみな恐れを抱いた。そして、これらのことの一部始終が、ユダヤの山地全体に語り伝えられていった。
- 66 聞いた人たちはみな、これらのことを心にとどめ、「いったいこの子は何になるのでしょうか」と言った。主の御手がその子とともにあったからである。
- 67 さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。
- 68 「ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、
- 69 救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。
- 70 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。
- 71 この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである。
- 72 主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。
- 73 私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。
- 74 主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてくださる。
- 75 私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく。
- 76 幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、
- 77 罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。
- 78 これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、

- 79 暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」
- 80 幼子は成長し、その霊は強くなり、イスラエルの民の前に公に現れる日まで荒野にいた。

第2章

- 1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。
- 2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。
- 3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。
- 4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
- 5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。
- 6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、
- 7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
- 8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。
- 9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。
- 10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。
- 11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
- 12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」
- 13 すると突然、その御使いと一緒におびたしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。
- 14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」
- 15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」
- 16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。
- 17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。
- 18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。
- 19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。
- 20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。
- 21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。
- 22 そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。
- 23 それは、主の律法に「最初に胎を開く男子はみな、主のために聖別された者と呼ばれる」と書いてあるとおり、幼子を主に献げるためであった。

- 24 また、主の律法に「山鳩一つがい、あるいは家鳩のひな二羽」と言われていることにしたがって、いけにえを献げるためであった。
- 25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。
- 26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、と、聖霊によって告げられていた。
- 27 シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。
- 28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。
- 29 「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。
- 30 私の目があなたの御救いを見たからです。
- 31 あなたが万民の前に備えられた救いを。
- 32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」
- 33 父と母は、幼子について語られる様々なことに驚いた。
- 34 シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れたり立ち上がったたりするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。
- 35 あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」
- 36 また、アシェル族のペヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代の後、七年間夫とともに暮らしたが、
- 37 やもめとなり、八十四歳になっていた。彼女は宮を離れず、断食と祈りをもって、夜も昼も神に仕えていた。
- 38 ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。
- 39 両親は、主の律法にしたがってすべてのことを成し遂げたので、ガリラヤの自分たちの町ナザレに帰って行った。
- 40 幼子は成長し、知恵に満ちてたくましくなり、神の恵みがその上にあった。
- 41 さて、イエスの両親は、過越の祭りに毎年エルサレムに行っていた。
- 42 イエスが十二歳になられたときも、両親は祭りの慣習にしたがって都へ上った。
- 43 そして祭りの期間を過ごしてから帰路についたが、少年イエスはエルサレムにとどまっておられた。両親はそれに気づかずに、
- 44 イエスが一行の中にいるものと思って、一日の道のりを進んだ。後になって親族や知人の中を捜し回ったが、
- 45 見つからなかったので、イエスを捜しながらエルサレムまで引き返した。
- 46 そして三日後になって、イエスが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。
- 47 聞いていた人たちはみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。

- 48 両親は彼を見て驚き、母は言った。「どうしてこんなことをしたのですか。見なさい。お父さんも私も、心配してあなたを捜していたのです。」
- 49 すると、イエスは両親に言われた。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の家のにいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか。」
- 50 しかし両親には、イエスの語られたことばが理解できなかった。
- 51 それからイエスは一緒に下って行き、ナザレに帰って両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。
- 52 イエスは神と人といつくしまれ、知恵が増し加わり、背たけも伸びていった。

第3章

- 1 皇帝ティベリウスの治世の第十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督であり、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟ピリポがイトラヤとトラコニテ地方の領主、リサニアがアビレネの領主、
- 2 アンナスとカヤパが大祭司であったころ、神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。
- 3 ヨハネはヨルダン川周辺のすべての地域に行き、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。
- 4 これは、預言者イザヤのことばの書に書いてあるとおりである。「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ。』」
- 5 すべての谷は埋められ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい道は平らになる。
- 6 こうして、すべての者が神の救いを見る。』」
- 7 ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしの子孫たち。だれが、迫り来る怒りを逃れるようにと教えたのか。
- 8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラハムだ』という考えを起こしてはいけません。言っておきますが、神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子らを起こすことができるのです。
- 9 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木はすべて切り倒されて、火に投げ込まれます。」
- 10 群衆はヨハネに尋ねた。「それでは、私たちはどうすればよいのでしょうか。」
- 11 ヨハネは答えた。「下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。食べ物を持っている人も同じようにしなさい。」
- 12 取税人たちもバプテスマを受けにやって来て、ヨハネに言った。「先生、私たちはどうすればよいのでしょうか。」
- 13 ヨハネは彼らに言った。「決められた以上には、何も取り立ててはいけません。」
- 14 兵士たちもヨハネに尋ねた。「この私たちはどうすればよいのでしょうか。」ヨハネは言った。「だれからも、金を力づくで奪ったり脅し取ったりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」
- 15 人々はキリストを待ち望んでいたもので、みなヨハネのことを、もしかするとこの方がキリストではないか、と心の中で考えていた。

- 16 そこでヨハネは皆に向かって言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりも力のある方が来られます。私はその方の履き物のひもを解く資格もありません。その方は聖霊と火で、あなたがたにバプテスマを授けられます。」
- 17 また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめ、麦を集めて倉に納められます。そして、殻を消えない火で焼き尽くされます。」
- 18 このようにヨハネは、ほかにも多くのことを勧めながら、人々に福音を伝えた。
- 19 しかし領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロディアのことと、自分が行った悪事のすべてをヨハネに非難されたので、
- 20 すべての悪事にもう一つ悪事を加え、ヨハネを牢に閉じ込めた。
- 21 さて、民がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマを受けられた。そして祈っておられると、天が開け、
- 22 聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」
- 23 イエスは、働きを始められたとき、およそ三十歳で、ヨセフの子と考えられていた。ヨセフはエリの子で、さかのぼると、
- 24 マタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、
- 25 マタティア、アモス、ナホム、エスリ、ナガイ、
- 26 マハテ、マタティア、シメイ、ヨセク、ヨダ、
- 27 ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シェアルティエル、ネリ、
- 28 メルキ、アディ、コサム、エルマダム、エル、
- 29 ヨシュア、エリエゼル、ヨリム、マタテ、レビ、
- 30 シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エルヤキム、
- 31 メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、
- 32 エッサイ、オベデ、ボアズ、サラ、ナフション、
- 33 アミナダブ、アデミン、アルニ、ヘツロン、ペレツ、ユダ、
- 34 ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、
- 35 セルグ、レウ、ペレグ、エベル、シェラ、
- 36 ケナン、アルパクシャデ、セム、ノア、レメク、
- 37 メトシェラ、エノク、ヤレデ、マハラルエル、ケナン、
- 38 エノシュ、セツ、アダム、そして神に至る。

第4章

- 1 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。そして御霊によって荒野に導かれ、
- 2 四十日間、悪魔の試みを受けられた。その間イエスは何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。
- 3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」
- 4 イエスは悪魔に答えられた。「『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」

- 5 すると悪魔はイエスを高いところに連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて、
- 6 こう言った。「このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげよう。それは私に任されていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。」
- 7 だから、もしあなたが私の前にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。」
- 8 イエスは悪魔に答えられた。「『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」
- 9 また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから下に身を投げなさい。」
- 10 『神は、あなたのために御使いたちに命じて、あなたを守られる。
- 11 彼らは、その両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」
- 12 するとイエスは答えられた。「『あなたの神である主を試みてはならない』と言われてい
- る。」
- 13 悪魔はあらゆる試みを終わると、しばらくの間イエスから離れた。
- 14 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が周辺一帯に広まった。
- 15 イエスは彼らの会堂で教え、すべての人に称賛された。
- 16 それからイエスはご自分が育ったナザレに行き、いつもしているとおりの安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。
- 17 すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その巻物を開いて、こう書いてある箇所を目を留められた。
- 18 「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、
- 19 主の恵みの年を告げるために。」
- 20 イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれていた。
- 21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおりの、今日、この聖書のことばが実現しました。」
- 22 人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。
- 23 そこでイエスは彼らに言われた。「きっとあなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カペナウムで行われたと聞いていることを、あなたの郷里のここでもしてくれ』と言うでしょう。」
- 24 そしてこう言われた。「まことに、あなたがたに言います。預言者はだれも、自分の郷里では歓迎されません。
- 25 まことに、あなたがたに言います。エリヤの時代に、イスラエルに多くのやもめがいました。三年六か月の間、天が閉じられ、大飢饉が全地に起こったとき、
- 26 そのやもめたちのだれのところにもエリヤは遣わされず、シドンのツアレファテにいた、一人のやもめの女にだけ遣わされました。

- 27 また、預言者エリシャのときには、イスラエルにはツアラアトに冒された人が多くいましたが、その中のだれもきよめられることはなく、シリア人ナアマンだけがきよめられました。」
- 28 これを聞くと、会堂にいた人たちはみな憤りに満たされ、
- 29 立ち上がってイエスを町の外に追い出した。そして町が建っていた丘の崖の縁まで連れて行き、そこから突き落とそうとした。
- 30 しかし、イエスは彼らのただ中を通り抜けて、去って行かれた。
- 31 それからイエスは、ガリラヤの町カペナウムに下られた。そして安息日には人々を教えておられた。
- 32 人々はその教えに驚いた。そのことばに権威があったからである。
- 33 その会堂に、汚れた悪霊につかれた人がいた。彼は大声で叫んだ。
- 34 「ああ、ナザレの人イエスよ、私たちと何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたなのか知っています。神の聖者です。」
- 35 イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。すると悪霊は、その人を人々の真ん中に投げ倒し、何の害も与えることなくその人から出て行った。
- 36 人々はみな驚いて、互いに言った。「このことばは何なのだろうか。権威と力をもって命じられると、汚れた霊が出て行くとは。」
- 37 こうしてイエスのうわさは、周辺の地域のいたるところに広まっていった。
- 38 イエスは立ち上がって会堂を出て、シモンの家に入られた。シモンの姑がひどい熱で苦しんでいたのので、人々は彼女のことをイエスにお願いした。
- 39 イエスがその枕元に立って熱を叱りつけられると、熱がひいた。彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた。
- 40 日が沈むと、様々な病で弱っている者をかかえている人たちがみな、病人たちをみもとに連れて来た。イエスは一人ひとりに手を置いて癒やされた。
- 41 また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。
- 42 朝になって、イエスは寂しいところに出て行かれた。群衆はイエスを捜し回って、みもとまでやって来た。そして、イエスが自分たちから離れて行かないように、引き止めておこうとした。
- 43 しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」
- 44 そしてユダヤの諸会堂で、宣教を続けられた。

第5章

- 1 さて、群衆が神のことばを聞こうとしてイエスに押し迫って来たとき、イエスはゲネサレ湖の岸边に立って、
- 2 岸边に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。
- 3 イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。

- 4 話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」
- 5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましょう。」
- 6 そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。
- 7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。
- 8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」
- 9 彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。
- 10 シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」
- 11 彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った。
- 12 さて、イエスがある町におられたとき、見よ、全身ツアラアトに冒された人がいた。その人はイエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります。」
- 13 イエスは手を伸ばして彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。すると、すぐにツアラアトが消えた。
- 14 イエスは彼にこう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々への証しのため、モーセが命じたように、あなたのきよめのささげ物をしなさい。」
- 15 しかし、イエスのうわさはますます広まり、大勢の群衆が話を聞くために、また病気を癒やしてもらうために集まって来た。
- 16 だが、イエスご自身は寂しいところに退いて祈っておられた。
- 17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人たちと律法の教師たちが、そこに座っていた。彼らはガリラヤとユダヤのすべての村やエルサレムから来ていた。イエスは主の御力によって、病気を治しておられた。
- 18 すると見よ。男たちが、中風をわずらっている人を床に載せて運んで来た。そして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとした。
- 19 しかし、大勢の人のために病人を運び込む方法が見つからなかったので、屋上に上って瓦をはがし、そこから彼の寝床を、人々の真ん中、イエスの前につり降ろした。
- 20 イエスは彼らの信仰を見て、「友よ、あなたの罪は赦された」と言われた。
- 21 ところが、律法学者たち、パリサイ人たちはあれこれ考え始めた。「神への冒瀆を口にするこの人は、いったい何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪を赦すことができるだろうか。」
- 22 イエスは彼らがあれこれ考えているのを見抜いて言われた。「あなたがたは心の中で何を考えているのか。」
- 23 『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。
- 24 しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために—。」そう言って、中風の人に言われた。「あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい。」

- 25 すると彼はすぐに人々の前で立ち上がり、寝ていた床を担ぎ、神をあがめながら自分の家に帰って行った。
- 26 人々はみな非常に驚き、神をあがめた。また、恐れに満たされて言った。「私たちは今日、驚くべきことを見た。」
- 27 その後、イエスは出て行き、収税所に座っているレビという取税人に目を留められた。そして「わたしについて来なさい」と言われた。
- 28 するとレビは、すべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。
- 29 それからレビは、自分の家でイエスのために盛大なもてなしをした。取税人たちやほかの人たちが大勢、ともに食卓に着いていた。
- 30 すると、パリサイ人たちや彼らのうちの律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって小声で文句を言った。「なぜあなたがたは、取税人たちや罪人たちと一緒に食べたり飲んだりするのですか。」
- 31 そこでイエスは彼らに答えられた。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人です。
- 32 わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためです。」
- 33 また彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」
- 34 イエスは彼らに言われた。「花婿が一緒にいるのに、花婿に付き添う友人たちに断食させることが、あなたがたにできますか。
- 35 しかし、やがて時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」
- 36 イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。「だれも、新しい衣から布切れを引き裂いて、古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんなことをすれば、その新しい衣を裂くことになり、新しい衣から取った布切れも古い衣には合いません。
- 37 まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を裂き、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。
- 38 新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなければなりません。
- 39 まただれも、古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物が良い』と言います。」

第6章

- 1 ある安息日に、イエスが麦畑を歩いておられたときのことである。弟子たちは穂を摘んで、手でもみながら食べていた。
- 2 すると、パリサイ人のうちの何人かが言った。「なぜあなたがたは、安息日にはしてはならないことをするのですか。」
- 3 イエスは彼らに答えられた。「ダビデと供の者たちが空腹になったとき、ダビデが何をしたら、
- 4 どのようにして、神の家に入り、祭司以外はだれも食べてはならない臨在のパンを取って食べ、供の者たちにも与えたか、読んだことがないのですか。」
- 5 そして彼らに言われた。「人の子は安息日の主です。」
- 6 別の安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに右手の萎えた人がいた。

- 7 律法学者たちやパリサイ人たちは、イエスが安息日に癒やしを行うかどうか、じっと見つめていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。
- 8 イエスは彼らの考えを知っておられた。それで、手の萎えた人に言われた。「立って、真ん中に出なさい。」その人は起き上がり、そこに立った。
- 9 イエスは彼らに言われた。「あなたがたに尋ねますが、安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか。いのちを救うことですか、それとも滅ぼすことですか。」
- 10 そして彼ら全員を見回してから、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、手は元どおりになった。
- 11 彼らは怒りに満ち、イエスをどうするか、話し合いを始めた。
- 12 そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。
- 13 そして、夜が明けると弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をお与えになった。
- 14 すなわち、ペテロという名を与えられたシモンとその兄弟アンデレ、そしてヤコブ、ヨハネ、ピリポ、バルトロマイ、
- 15 マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、熱心党员と呼ばれていたシモン、
- 16 ヤコブの子ユダ、イスカリオテのユダで、このユダが裏切る者となった。
- 17 それからイエスは彼らとともに山を下り、平らなところにお立ちになった。大勢の弟子たちの群れや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロやシドンの海岸地方から来た、おびただしい数の人々がそこにいた。
- 18 彼らはイエスの教えを聞くため、また病気を治してもらうために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人たちも癒やしてもらっていた。
- 19 群衆はみな何とかしてイエスにさわろうとしていた。イエスから力が出て、すべての人を癒やしていたからである。
- 20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話し始められた。「貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。
- 21 今飢えている人たちは幸いです。あなたがたは満ち足りるようになるからです。今泣いている人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。
- 22 人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。
- 23 その日には躍り上がって喜びなさい。見なさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。彼らの先祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。
- 24 しかし、富んでいるあなたがたは哀れです。あなたがたは慰めをすでに受けているからです。
- 25 今満腹しているあなたがたは哀れです。あなたがたは飢えるようになるからです。今笑っているあなたがたは哀れです。あなたがたは泣き悲しむようになるからです。
- 26 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。
- 27 しかし、これを聞いているあなたがたに、わたしは言います。あなたがたの敵を愛しなさい。あなたがたを憎む者たちに善を行いなさい。

- 28 あなたがたを呪う者たちを祝福しなさい。あなたがたを侮辱する者たちのために祈りなさい。
- 29 あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬も向けなさい。あなたの上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。
- 30 求める者には、だれにでも与えなさい。あなたのものを奪い取る者から、取り戻してはいけません。
- 31 人からしてもらいたいと望むとおりに、人にしなさい。
- 32 自分を愛してくれる者たちを愛したとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも、自分を愛してくれる者たちを愛しています。
- 33 自分に良いことをしてくれる者たちに良いことをしたとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも同じことをしています。
- 34 返してもらうつもりで人に貸したとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも、同じだけ返してもらうつもりで、罪人たちに貸しています。
- 35 しかし、あなたがたは自分の敵を愛しなさい。彼らに良くしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは多く、あなたがたは、いと高き方の子どもになります。いと高き方は、恩知らずな者にも悪人にもあわれみ深いからです。
- 36 あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くなりなさい。
- 37 さばいてはいけません。そうすれば、あなたがたもさばかれません。人を不義に定めてはいけません。そうすれば、あなたがたも不義に定められません。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦されます。
- 38 与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」
- 39 イエスはまた、彼らに一つのたとえを話された。「盲人が盲人を案内できるでしょうか。二人とも穴に落ち込まないでしょうか。
- 40 弟子は師以上の者ではありません。しかし、だれでも十分に訓練を受ければ、自分の師のようにはなります。
- 41 あなたは、兄弟の目にあるちりは見えるのに、自分自身の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか。
- 42 あなた自身、自分の目にある梁が見えていないのに、兄弟に対して『兄弟、あなたの目のちりを取り除かせてください』と、どうして言えるのですか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、兄弟の目のちりがはっきり見えるようになって、取り除くことができます。
- 43 良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともありません。
- 44 木はそれぞれ、その実によって分かります。茨からいちじくを採ることはなく、野ばらからぶどうを摘むこともありません。
- 45 良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。人の口は、心に満ちていることを話すからです。
- 46 なぜあなたがたは、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。

- 47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行う人がみな、どんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。
- 48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せても、しっかり建てられていたので、びくともしませんでした。
- 49 しかし、聞いても行わない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家はすぐに倒れてしまい、その壊れ方はひどいものでした。」

第7章

- 1 イエスは、耳を傾けている人々にこれらのことばをすべて話し終わると、カペナウムに入られた。
- 2 時に、ある百人隊長に重んじられていた一人のしもべが、病気で死にかけていた。
- 3 百人隊長はイエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、自分のしもべを助けに来てくださいとお願いした。
- 4 イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。
- 5 私たちの国民を愛し、私たちのために自ら会堂を建ててくれました。」
- 6 そこで、イエスは彼らと一緒に行かれた。ところが、百人隊長の家からあまり遠くないところまで来たとき、百人隊長は友人たちを使いに出して、イエスにこう伝えた。「主よ、わざわざ、ご足労くださるには及びません。あなた様を、私のような者の家の屋根の下にお入れする資格はありませんので。
- 7 ですから、私自身があなた様のもとに伺うのも、ふさわしいとは思いませんでした。ただ、おことばを下さい。そうして私のしもべを癒やしてください。
- 8 と申しますのは、私も権威の下に置かれている者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」
- 9 イエスはこれを聞いて驚き、振り向いて、ついて来ていた群衆に言われた。「あなたがたに言いますが、わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません。」
- 10 使いに送られた人たちが家に戻ると、そのしもべは良くなっていた。
- 11 それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大勢の群衆も一緒に行った。
- 12 イエスが町の門に近づかれると、見よ、ある母親の一人息子が、死んで担ぎ出されるところであった。その母親はやもめで、その町の人々が、彼女に付き添っていた。
- 13 主はその母親を見て深くあわれみ、「泣かなくてもよい」と言われた。
- 14 そして近寄って棺に触れると、担いでいた人たちは立ち止まった。イエスは言われた。「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」
- 15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めた。イエスは彼を母親に返された。
- 16 人々はみな恐れを抱き、「偉大な預言者が私たちのうちに現れた」とか、「神がご自分の民を顧みてくださった」と言って、神をあがめた。
- 17 イエスについてのこの話は、ユダヤ全土と周辺の地域一帯に広まった。

- 18 さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。すると、ヨハネは弟子たちの中から二人の者を呼んで、
- 19 こう言づけて、主のもとに送り出した。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。」
- 20 その人たちはみもとに来て言った。「私たちはバプテスマのヨハネから遣わされて、ここに参りました。『おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか』と、ヨハネが申しております。」
- 21 ちょうどそのころ、イエスは病気や苦しみや悪霊に悩む多くの人たちを癒やし、また目の見えない多くの人たちを見えるようにしておられた。
- 22 イエスは彼らにこう答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。
- 23 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」
- 24 ヨハネの使いが帰ってから、イエスはヨハネについて群衆に話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。
- 25 では、何を見に行ったのですか。柔らかな衣をまとった人ですか。ご覧なさい。きらびやかな服を着て、ぜいたくに暮らしている人たちなら宮殿にいます。
- 26 では、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そのとおり。わたしはあなたがたに言います。預言者よりもすぐれた者をです。
- 27 この人こそ、『見よ、わたしはわたしの使いを あなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える』と書かれているその人です。
- 28 わたしはあなたがたに言います。女から生まれた者の中で、ヨハネよりも偉大な者はだれもいません。しかし、神の国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。
- 29 ヨハネの教えを聞いた民はみな、取税人たちでさえ彼からバプテスマを受けて、神が正しいことを認めました。
- 30 ところが、パリサイ人たちや律法の専門家たちは、彼からバプテスマを受けず、自分たちに対する神のみこころを拒みました。
- 31 それでは、この時代の人々を何にたとえたらよいでしょうか。彼らは何に似ているのでしょうか。
- 32 広場に座り、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。『笛を吹いてあげたのに、君たちは踊らなかった。弔いの歌を歌ってあげたのに、泣かなかった。』
- 33 バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も飲まずにいると、あなたがたは『あれは悪霊につかわれている』と言い、
- 34 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。
- 35 しかし、知恵が正しいことは、すべての知恵の子らが証明します。」
- 36 さて、あるパリサイ人が一緒に食事をしたいとイエスを招いたので、イエスはそのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。

- 37 すると見よ。その町に一人の罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏の壺を持って来た。
- 38 そしてうしろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらイエスの足を涙でぬらし始め、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗った。
- 39 イエスを招いたパリサイ人はこれを見て、「この人がもし預言者だったら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っているはずだ。この女は罪深いのだから」と心の中で思っていた。
- 40 するとイエスは彼に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがあります」と言われた。シモンは、「先生、お話しください」と言った。
- 41 「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリ、もう一人は五十デナリ。
- 42 彼らは返すことができなかったので、金貸しは二人とも借金を帳消しにしてやった。それでは、二人のうちのどちらが、金貸しをより多く愛するようになるでしょうか。」
- 43 シモンが「より多くを帳消しにしてもらったほうだと思います」と答えると、イエスは「あなたの判断は正しい」と言われた。
- 44 それから彼女の方を向き、シモンに言われた。「この人を見ましたか。わたしがあなたの家に入って来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかったが、彼女は涙でわたしの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐってくれました。
- 45 あなたは口づけしてくれなかったが、彼女は、わたしが入って来たときから、わたしの足に口づけしてやめませんでした。
- 46 あなたはわたしの頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、彼女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。
- 47 ですから、わたしはあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。」
- 48 そして彼女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。
- 49 すると、ともに食卓に着いていた人たちは、自分たちの間で言い始めた。「罪を赦すことさえするこの人は、いったいだれなのか。」
- 50 イエスは彼女に言われた。「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

第8章

- 1 その後、イエスは町や村を巡って神の国を説き、福音を宣べ伝えられた。十二人もお供をした。
- 2 また、悪霊や病気を治してもらった女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラの女と呼ばれるマリア、
- 3 ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの女たちも一緒であった。彼女たちは、自分の財産をもって彼らに仕えていた。
- 4 さて、大勢の群衆が集まり、方々の町から人々がみもとにやって来たので、イエスはたとえを用いて話された。
- 5 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いていると、ある種が道端に落ちた。すると、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。
- 6 また、別の種は岩の上に落ちた。生長したが、水分がなかったので枯れてしまった。

- 7 また、別の種は茨の真ん中に落ちた。すると、茨も一緒に生え出てふさいでしまった。
- 8 また、別の種は良い地に落ち、生長して百倍の実を結んだ。」イエスはこれらのことを話しながら、大声で言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」
- 9 弟子たちは、このたとえがどういう意味なのか、イエスに尋ねた。
- 10 イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義を知ることが許されていますが、ほかの人たちには、たとえで話します。『彼らが見ていても見ることがなく、聞いていても悟ることがないように』 するためです。
- 11 このたとえの意味はこうです。種は神のことばです。
- 12 道端に落ちたものとは、みことばを聞いても信じて救われないように、後で悪魔が来て、その心からみことばを取り去ってしまう、そのような人たちのことです。
- 13 岩の上に落ちたものとは、みことばを聞くと喜んで受け入れるのですが、根がないので、しばらくは信じていても試練のときに身を引いてしまう、そのような人たちのことです。
- 14 茨の中に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らはみことばを聞いたのですが、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂でふさがれて、実が熟すまでになりません。
- 15 しかし、良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。
- 16 明かりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする人はいません。燭台の上に置いて、入って来た人たちに光が見えるようにします。
- 17 隠れているもので、あらわにされないものはなく、秘められたもので知られないもの、明らかにされないものはありません。
- 18 ですから、聞き方に注意しなさい。というのは、持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っていると思っているものまで取り上げられるからです。」
- 19 さて、イエスのところに母と兄弟たちが来たが、大勢の人のためにそばに近寄れなかった。
- 20 それでイエスに、「母上と兄弟方が、お会いしたいと外に立っておられます」という知らせがあった。
- 21 しかし、イエスはその人たちにこう答えられた。「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて行う人たちのことです。」
- 22 ある日のことであった。イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたので、弟子たちは舟を出した。
- 23 舟で渡っている間に、イエスは眠り始められた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、彼らは水をかぶって危険になった。
- 24 そこで弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、私たちは死んでしまいます」と言った。イエスは起き上がり、風と荒波を叱りつけられた。すると静まり、凧になった。
- 25 イエスは彼らに対して、「あなたがたの信仰はどこにあるのですか」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「お命じになると、風や水までが従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろうか。」
- 26 こうして彼らは、舟で、ガリラヤの反対側にあるゲラサ人の地に着いた。
- 27 イエスが陸に上がられると、その町の者で、悪霊につかわれている男がイエスを迎えた。彼は長い間、服を身に着けず、家に住まないで墓場に住んでいた。

- 28 彼はイエスを見ると叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのですか。お願いです。私を苦しめないでください。」
- 29 それは、イエスが汚れた霊に、この人から出て行くように命じられたからであった。汚れた霊はこの人を何回も捕らえていた。それで彼は鎖と足かせでつながれて監視されていたが、それらを断ち切っては、悪霊によって荒野に駆り立てられていた。
- 30 イエスが「おまえの名は何か」とお尋ねになると、彼は「レギオンです」と答えた。悪霊が大勢彼に入っていたからである。
- 31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。
- 32 ちょうど、そのあたりの山に、たくさんの豚の群れが飼われていたので、悪霊どもは、その豚に入ることを許してくださいと懇願した。イエスはそれを許された。
- 33 悪霊どもはその人から出て、豚に入った。すると豚の群れは崖を下って湖へなだれ込み、おぼれて死んだ。
- 34 飼っていた人たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や里でこのことを伝えた。
- 35 人々は、起こったことを見ようと出て来た。そしてイエスのところに来て、イエスの足もとに、悪霊の去った男が服を着て、正気に返って座っているのを見た。それで恐ろしくなった。
- 36 見ていた人たちは、悪霊につかれていた人がどのように救われたか、人々に知らせた。
- 37 ゲラサ周辺の人々はみな、イエスに、自分たちのところから出て行ってほしいと願った。非常な恐れに取りつかれていたからであった。それで、イエスが舟に乗って帰ろうとされると、
- 38 悪霊が去ったその人は、お供をしたいとしきりに願った。しかし、イエスはこう言って彼を帰された。
- 39 「あなたの家に帰って、神があなたにしてくださったことをすべて、話して聞かせなさい。」それで彼は立ち去って、イエスが自分にしてくださったことをすべて、町中に言い広めた。
- 40 さて、イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわびていたのである。
- 41 すると見よ、ヤイロという人がやって来た。この人は会堂司であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと懇願した。
- 42 彼には十二歳ぐらいの一人娘がいて、死にかけていたのであった。それでイエスが出かけられると、群衆はイエスに押し迫って来た。
- 43 そこに、十二年の間、長血をわずらい、医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかった女の人がいた。
- 44 彼女はイエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。すると、ただちに出血が止まった。
- 45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。大勢の人たちが、あなたを囲んで押し合っています」と言った。
- 46 しかし、イエスは言われた。「だれかがわたしにさわりました。わたし自身、自分から力が出て行くのを感じました。」
- 47 彼女は隠しきれないと知って、震えながら進み出て御前にひれ伏し、イエスにさわった理由と、ただちに癒やされた次第を、すべての民の前で話した。
- 48 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

- 49 イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」
- 50 これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われます。」
- 51 イエスは家に着いたが、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、そしてその子の父と母のほかは、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。
- 52 人々はみな、少女のために泣き悲しんでいた。しかし、イエスは言われた。「泣かなくてよい。死んだのではなく、眠っているのです。」
- 53 人々は、少女が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。
- 54 しかし、イエスは少女の手を取って叫ばれた。「子よ、起きなさい。」
- 55 すると少女の霊が戻って、少女はただちに起き上がった。それでイエスは、その子に食べ物を与えるように命じられた。
- 56 両親が驚いていると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

第9章

- 1 イエスは十二人を呼び集めて、すべての悪霊を制して病気を癒やす力と権威を、彼らにお授けになった。
- 2 そして、神の国を宣べ伝え、病人を治すために、こう言って彼らを遣わされた。
- 3 「旅には何も持って行かないようにしなさい。杖も袋もパンも金もです。また下着も、それぞれ二枚持ってはいけません。
- 4 どの家に入っても、そこにとどまり、そこから出かけなさい。
- 5 人々があなたがたを受け入れないなら、その町を出て行くときに、彼らに対する証言として、足のちりを払い落としなさい。」
- 6 十二人は出て行って、村から村へと巡りながら、いたるところで福音を宣べ伝え、癒やしを行った。
- 7 さて、領主ヘロデはこのすべての出来事を聞いて、ひどく当惑していた。ある人たちは、「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ」と言い、
- 8 別の人たちは、「エリヤが現れたのだ」と言い、さらに別の人たちは、「昔の預言者の一人が生き返ったのだ」と言っていたからである。
- 9 ヘロデは言った。「ヨハネは私が首をはねた。このよううわさがあるこの人は、いったいだれなのだろうか。」ヘロデはイエスに会ってみたいと思った。
- 10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちがしたことをすべて報告した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。
- 11 ところが、それを知った群衆がイエスの後について来た。イエスは彼らを喜んで迎え、神の国のことを話し、また、癒やしを必要とする人たちを治された。
- 12 日が傾き始めたので、十二人はみもとに来て言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿をとり、何か食べることができるでしょう。私たちは、このような寂しいところにいるのですから。」

- 13 すると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」
彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。私たちが出かけて行って、この民全員のために食べ物を買うのでしょうか。」
- 14 というのは、男だけでおよそ五千人もいたからである。しかし、イエスは弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい。」
- 15 弟子たちはそのとおりにして、全員を座らせた。
- 16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。
- 17 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二かごあった。
- 18 さて、イエスが一人で祈っておられたとき、弟子たちも一緒にいた。イエスは彼らにお尋ねになった。「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか。」
- 19 彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人たち、昔の預言者の一人が生き返ったのだと言う人たちもいます。」
- 20 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロが答えた。「神のキリストです。」
- 21 するとイエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じられた。
- 22 そして、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日目によみがえらなければならない、と語られた。
- 23 イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。
- 24 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを救うのです。
- 25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の益があるのでしょうか。
- 26 だれでも、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子もまた、自分と父と聖なる御使いの栄光を帯びてやって来るとき、その人を恥じます。
- 27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」
- 28 これらのことを教えてから八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れて、祈るために山に登られた。
- 29 祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。
- 30 そして、見よ、二人の人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤで、
- 31 栄光のうちに現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。
- 32 ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、はっきり目が覚めると、イエスの栄光と、イエスと一緒に立っている二人の人が見えた。
- 33 この二人がイエスと別れようとしたとき、ペテロがイエスに言った。「先生。私たちがここにいることは素晴らしいことです。幕屋を三つ造りましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。」ペテロは自分の言っていることが分かっていなかった。

- 34 ペテロがこう言っているうちに、雲がわき起こって彼らをおおった。彼らが雲の中に入ると、弟子たちは恐ろしくなった。
- 35 すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」
- 36 この声がしたとき、そこに見えたのはイエスだけであった。弟子たちは沈黙を守り、当時は自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかった。
- 37 次の日、一行が山から下りて来ると、大勢の群衆がイエスを迎えた。
- 38 すると見よ、群衆の中から、一人の人が叫んで言った。「先生、お願いします。息子を見てやってください。私の一人息子です。」
- 39 ご覧ください。霊がこの子に取りつくと、突然叫びます。そして、引きつけを起こさせて泡を吹かせ、打ちのめして、なかなか離れようとしません。
- 40 あなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」
- 41 イエスは答えられた。「ああ、不信仰な曲がった時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子をここに連れて来なさい。」
- 42 その子が来る途中でも、悪霊は彼を倒して引きつけを起こさせた。しかし、イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。
- 43 人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。イエスがなさったすべてのことに人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた。
- 44 「あなたがたは、これらのことばを自分の耳に入れておきなさい。人の子は、人々の手に渡されようとしています。」
- 45 しかし、弟子たちには、このことばが理解できなかった。彼らには分からないように、彼らから隠されていたのであった。彼らは、このことばについてイエスに尋ねるのを恐れていた。
- 46 さて、弟子たちの間で、だれが一番偉いかという議論が持ち上がった。
- 47 しかし、イエスは彼らの心にある考えを知り、一人の子どもの手を取って、自分のそばに立たせ、
- 48 彼らに言われた。「だれでも、このような子どもを、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、だれでもわたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。あなたがた皆の中で一番小さい者が、一番偉いのです。」
- 49 さて、ヨハネが言った。「先生。あなたの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかったからです。」
- 50 しかし、イエスは彼に言われた。「やめさせてはいけません。あなたがたに反対しない人は、あなたがたの味方です。」
- 51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころのことであった。イエスは御顔をエルサレムに向け、毅然として進んで行かれた。
- 52 そして、ご自分の前に使いを送り出された。彼らは行ってサマリア人の村に入り、イエスのために備えをした。
- 53 しかし、イエスが御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリア人はイエスを受け入れなかった。

- 54 弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」
- 55 しかし、イエスは振り向いて二人を叱られた。
- 56 そして一行は別の村に行った。
- 57 彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」
- 58 イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところもありません。」
- 59 イエスは別の人に、「わたしに従って来なさい」と言われた。しかし、その人は言った。「まず行って、父を葬ることをお許してください。」
- 60 イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」
- 61 また、別の人が言った。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許してください。」
- 62 すると、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」

第10章

- 1 その後、主は別に七十二人を指名して、ご自分が行くつもりすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた。
- 2 そして彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。
- 3 さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に子羊を送り出すようなものです。
- 4 財布も袋も持たず、履き物もはかずに行きなさい。道でだれにもあいさつしてはいけません。
- 5 どの家に入っても、まず、『この家に平安があるように』と言いなさい。
- 6 そこに平安の子がいたら、あなたがたの平安は、その人の上にとどまります。いなければ、その平安はあなたがたに返って来ます。
- 7 その家にとどまり、出される物を食べたり飲んだりしなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。
- 8 どの町に入っても、人々があなたがたを受け入れてくれたら、出された物を食べなさい。
- 9 そして、その町の病人を癒やし、彼らに『神の国があなたがたの近くに来ている』と言いなさい。
- 10 しかし、どの町であれ、人々があなたがたを受け入れないなら、大通りに出て言いなさい。
- 11 『私たちは、足に付いたこの町のちりさえ、おまえたちに払い落として行く。しかし、神の国が近づいたことは知っておきなさい。』
- 12 あなたがたに言います。その日には、ソドムのほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。

- 13 ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ。おまえたちの間で行われた力あるわざが、ツロとシドンで行われていたら、彼らはとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって座り、悔い改めていたことだろう。
- 14 しかし、さばきのときには、ツロとシドンのほうが、おまえたちよりもさばきに耐えやすいのだ。
- 15 カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。
- 16 あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのです。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのです。」
- 17 さて、七十二人が喜んで帰って来て言った。「主よ。あなたの御名を用いると、悪霊どもでさえ私たちに服従します。」
- 18 イエスは彼らに言われた。「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。
- 19 確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。
- 20 しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
- 21 ちょうどそのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。
- 22 すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。子がだれであるかは、父のほかはだれも知りません。また父がだれであるかは、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかは、だれも知りません。」
- 23 それからイエスは、弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたが見ているものを見る目は幸いです。
- 24 あなたがたに言います。多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たいと願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けませんでした。」
- 25 さて、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試みようとして言った。「先生。何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」
- 26 イエスは彼に言われた。「律法には何と書いてありますか。あなたはどう読んでいますか。」
- 27 すると彼は答えた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』とあります。」
- 28 イエスは言われた。「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」
- 29 しかし彼は、自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とはだれですか。」
- 30 イエスは答えられた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた。強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。
- 31 たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。
- 32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。」

- 33 ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。
- 34 そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。
- 35 次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』
- 36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」
- 37 彼は言った。「その人にあわれみ深い行いをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」
- 38 さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。
- 39 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。
- 40 ところが、マルタはいろいろなもてなしのために心が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」
- 41 主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。
- 42 しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」

第11章

- 1 さて、イエスはある場所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」
- 2 そこでイエスは彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が聖なるものとされますように。御国が来ますように。』」
- 3 私たちの日ごとの糧を、毎日お与えください。
- 4 私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します。私たちを試みにあわせないでください。』」
- 5 また、イエスはこう言われた。「あなたがたのうちのだれかに友だちがいて、その人のところに真夜中に行き、次のように言ったとします。『友よ、パンを三つ貸してくれないか。』
- 6 友人が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』
- 7 すると、その友だちは家の中からこう答えるでしょう。『面倒をかけないでほしい。もう戸を閉めてしまったし、子どもたちも私と一緒に床に入っている。起きて、何かをあげることはできない。』
- 8 あなたがたに言います。この人は、友だちだからというだけでは、起きて何かをあげることはしないでしょう。しかし、友だちのしつこさのゆえなら起き上がり、必要なものを何でもあげるでしょう。
- 9 ですから、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。
- 10 だれでも、求める者は手に入れ、探す者は見出し、たたく者には開かれます。

- 11 あなたがたの中で、子どもが魚を求めているのに、魚の代わりに蛇を与えるような父親がいるでしょうか。
- 12 卵を求めているのに、サソリを与えるような父親がいるでしょうか。
- 13 ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいませ。」
- 14 さて、イエスは悪霊を追い出しておられた。それは口をきけなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口がきけなかった人がものを言い始めたので、群衆は驚いた。
- 15 しかし、彼らのうちのある者たちは、「悪霊どものかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言った。
- 16 また、ほかの者たちはイエスを試みようとして、天からのしるしを要求した。
- 17 しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「どんな国でも内輪もめしたら荒れすたれ、家も内輪で争えば倒れます。
- 18 あなたがたは、わたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出していると言いますが、サタンが仲間割れしたのなら、どうしてサタンの国は立ち行くことができるでしょう。
- 19 もし、わたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているとしたら、あなたがたの子らが悪霊どもを追い出しているのは、だれによってなのですか。そういうわけで、あなたがたの子らがあなただたをさばく者となります。
- 20 しかし、わたしが神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。
- 21 強い者が十分に武装して自分の屋敷を守っているときは、その財産は無事です。
- 22 しかし、もっと強い人が襲って来て彼に打ち勝つと、彼が頼みにしていた武具を奪い、分捕り品を分けます。
- 23 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしとともに集めない者は散らしているのです。
- 24 汚れた霊は人から出て行くと、水のない地をさまよって休み場を探します。でも見つからず、『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。
- 25 帰って見ると、家は掃除されてきちんと片付いています。
- 26 そこで出かけて行って、自分よりも悪い、七つのほかの霊を連れて来て、入り込んでそこに住みつきます。そうなると、その人の最後の状態は、初めよりも悪くなるのです。」
- 27 イエスがこれらのことを話しておられると、群衆の中から、ある女が声をあげてイエスに言った。「あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は幸いです。」
- 28 しかし、イエスは言われた。「幸いなのは、むしろ神のことばを聞いてそれを守る人たちです。」
- 29 さて、群衆の数が増えてくると、イエスは話し始められた。「この時代は悪い時代です。しるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし、ヨナのしるしは別です。
- 30 ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。
- 31 南の女王が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。

- 32 ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし見なさい。ここにヨナにまさるものがあります。
- 33 だれも、明かりをともして、それを穴蔵の中や升の下に置く者はいません。燭台の上に置きます。入って来た人たちに、その光が見えるようにするためです。
- 34 からだの明かりは目です。あなたの目が健やかなら全身も明るくなりますが、目が悪いと、からだも暗くなります。
- 35 ですから、自分のうちの光が闇にならないように気をつけなさい。
- 36 もし、あなたの全身が明るくて何の暗い部分もないなら、明かりがその輝きであなたを照らすときのように、全身が光に満ちたものとなります。」
- 37 イエスが話し終わられると、一人のパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたい、とお願ひした。そこでイエスは家に入って、食卓に着かれた。
- 38 そのパリサイ人は、イエスが食事の前に、まずきよめの洗いをなさらないのを見て驚いた。
- 39 すると、主は彼に言われた。「なるほど、あなたがたパリサイ人は、杯や皿の外側はきよめるが、その内側は強欲と邪悪で満ちています。
- 40 愚かな者たち。外側を造られた方は、内側も造られたのではありませんか。
- 41 とにかく、内にあるものを施しに用いなさい。そうすれば、見よ、あなたがたにとって、すべてがきよいものとなります。
- 42 だが、わざわざだ、パリサイ人。おまえたちはミント、うん香、あらゆる野菜の十分の一を納めているが、正義と神への愛をおろそかにしている。十分の一もおろそかにしてはいけないが、これこそしなければならないことだ。
- 43 わざわいだ、パリサイ人。おまえたちは会堂の上席や、広場であいさつされることが好きだ。
- 44 わざわいだ。おまえたちは人目につかない墓のようで、人々は、その上を歩いても気がつかない。」
- 45 すると、律法の専門家の一人がイエスに言った。「先生。そのようなことを言われるなら、私たちまで侮辱することになります。」
- 46 しかし、イエスは言われた。「おまえたちもわざわざだ。律法の専門家たち。人々には負いきれない荷物を負わせるが、自分は、その荷物に指一本触れようとはしない。
- 47 わざわいだ。おまえたちは預言者たちの墓を建てているが、彼らを殺したのは、おまえたちの先祖だ。
- 48 こうして、おまえたちは先祖がしたことの証人となり、同意しているのだ。彼らが預言者たちを殺し、おまえたちが墓を建てているのだから。
- 49 だから、神の知恵もこう言ったのだ。『わたしは預言者たちや使徒たちを彼らに遣わすが、彼らは、そのうちのある者たちを殺し、ある者たちを迫害する。
- 50 それは、世界の基が据えられたときから流されてきた、すべての預言者の血の責任を、この時代が問われるためである。
- 51 アベルの血から、祭壇と神の家の間で殺されたザカリヤの血に至るまで。』そうだ。わたしはおまえたちに言う。この時代はその責任を問われる。
- 52 わざわいだ、律法の専門家たち。おまえたちは知識の鍵を取り上げて、自分が入らず、入ろうとする人々を妨げたのだ。」

- 53 イエスがそこを出て行かれると、律法学者たち、パリサイ人たちはイエスに対して激しい敵意を抱き、多くのことについてしつこく質問攻めを始めた。
- 54 彼らは、イエスの口から出ることに、言いがかりをつけようと狙っていたのである。

第12章

- 1 そうしているうちに、数えきれないほどの群衆が集まって来て、足を踏み合うほどになった。イエスはまず弟子たちに話し始められた。「パリサイ人のパン種、すなわち偽善には気をつけなさい。
- 2 おおわれているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずすむものはありません。
- 3 ですから、あなたがたが暗闇で言ったことが、みな明るみで聞かれ、奥の部屋で耳にささやいたことが、屋上で言い広められるのです。
- 4 わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、その後はもう何もできない者たちを恐れてはいけません。
- 5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。
- 6 五羽の雀が、ニアサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でも、神の御前で忘れられてはいません。
- 7 それどころか、あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、多くの雀よりも価値があるのです。
- 8 あなたがたに言います。だれでも人々の前でわたしを認めるなら、人の子もまた、神の御使いたちの前でその人を認めます。
- 9 しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われませぬ。
- 10 人の子を悪く言う者はだれでも赦されます。しかし、聖霊を冒瀆する者は赦されませぬ。
- 11 また、人々があなたがたを、会堂や役人たち、権力者たちのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しなくてよいのです。
- 12 言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」
- 13 群衆の中の一人がイエスに言った。「先生。遺産を私と分けるように、私の兄弟に言ってください。」
- 14 すると、イエスは彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停人に任命したのですか。」
- 15 そして人々に言われた。「どんな貪欲にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っていたても、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」
- 16 それからイエスは人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。
- 17 彼は心の中で考えた。『どうしよう。私の作物をしまっておく場所がない。』
- 18 そして言った。『どうしよう。私の倉を壊して、もっと大きいのを建て、私の穀物や財産はすべてそこにしまっておこう。』

- 19 そして、自分のたましいにこう言おう。「わがたましいよ、これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ。」』
- 20 しかし、神は彼に言われた。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』
- 21 自分のために蓄えても、神に対して富まない者はこのとおりです。」
- 22 それからイエスは弟子たちに言われた。「ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようかと、いのちのことで心配したり、何を着ようかと、からだのことで心配したりするのはやめなさい。
- 23 いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものだからです。
- 24 鳥のことをよく考えなさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、納屋も倉もありません。それでも、神は養ってくださいます。あなたがたには、その鳥よりも、どんなに大きな価値があることでしょうか。
- 25 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。
- 26 こんな小さなことさえできないのなら、なぜほかのことまで心配するのですか。
- 27 草花がどのようにして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装ってはいませんでした。
- 28 今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、どんなに良くしてくださることでしょうか。信仰の薄い人たちよ。
- 29 何を食べたらよいか、何を飲んだらよいかと、心配するのをやめ、気をもむのをやめなさい。
- 30 これらのものはすべて、この世の異邦人が切に求めているものです。これらのものがあなたがたに必要であることは、あなたがたの父が知っておられます。
- 31 むしろ、あなたがたは御国を求めなさい。そうすれば、これらのものはそれに加えて与えられます。
- 32 小さな群れよ、恐れることはありません。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国を与えてくださるのです。
- 33 自分の財産を売って施しをきなさい。自分のために、天に、すり切れない財布を作り、尽きる事のない宝を積みなさい。天では盗人が近寄ることも、虫が食い荒らすこともありません。
- 34 あなたがたの宝のあるところ、そこにあなたがたの心もあるのです。
- 35 腰に帯を締め、明かりをともしていなさい。
- 36 主人が婚礼から帰って来て戸をたたいたら、すぐに戸を開けようと、その帰りを待っている人たちのようにありなさい。
- 37 帰って来た主人に、目を覚ましているのを見てもらえるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばに来て給仕してくれます。
- 38 主人が真夜中に帰って来ても、夜明けに帰って来ても、そのようにしているのを見てもらえるなら、そのしもべたちは幸いです。
- 39 このことを知っておきなさい。もしも家の主人が、泥棒の来る時間を知っていたら、自分の家に押し入るのを許さないでしょう。

- 40 あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのです。」
- 41 そこで、ペテロが言った。「主よ。このたとえを話されたのは私たちのためですか、皆のためですか。」
- 42 主は言われた。「では、主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人とは、いったいどれでしょうか。」
- 43 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。
- 44 まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。
- 45 もし、そのしもべが心の中で、『主人の帰りは遅くなる』と思い、男女の召使いたちを打ちたたき、食べたり飲んだり、酒に酔ったりし始めるなら、
- 46 そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、不忠実な者たちと同じ報いを与えます。
- 47 主人の思いを知りながら用意もせず、その思いどおりに働きもしなかったしもべは、むちでひどく打たれます。
- 48 しかし、主人の思いを知らずにいて、むち打たれるに値することをしたしもべは、少ししか打たれません。多く与えられた者はみな、多くを求められ、多く任された者は、さらに多くを要求されます。
- 49 わたしは、地上に火を投げ込むために来ました。火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることでしょうか。
- 50 わたしには受けるべきバプテスマがあります。それが成し遂げられるまで、わたしはどれほど苦しむことでしょうか。
- 51 あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思っていますか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ分裂です。
- 52 今から後、一つの家の中で五人が二つに分かれ、三人が二人に、二人が三人に対立するようになります。
- 53 父は息子に、息子は父に対立し、母は娘に、娘は母に対立し、姑は嫁に、嫁は姑に対立して分かれるようになります。」
- 54 イエスは群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言います。そしてそのとおりになります。
- 55 また南風が吹くと、『暑くなるぞ』と言います。そしてそのとおりになります。
- 56 偽善者たちよ。あなたがたは地と空の様子を見分けることを知っていながら、どうして今の時代を見分けようとしないのですか。
- 57 あなたがたは、何が正しいか、どうして自分で判断しないのですか。
- 58 あなたを訴える人と一緒に役人のところに行くときは、途中でその人と和解するように努めなさい。そうでないと、その人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行き、裁判官はあなたを看守に引き渡し、看守はあなたを牢に投げ込みます。
- 59 あなたに言います。最後のレプタを支払うまで、そこから出ることは決してできません。」

第13章

- 1 ちょうどそのとき、人々が何人かやって来て、ピラトがガリラヤ人たちの血を、ガリラヤ人たちが献げるいけにえに混ぜた、とイエスに報告した。
- 2 イエスは彼らに言われた。「そのガリラヤ人たちは、そのような災難にあったのだから、ほかのすべてのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったと思いますか。」
- 3 そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。
- 4 また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも多く、罪の負債があったと思いますか。」
- 5 そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」
- 6 イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。そして、実を探しに来たが、見つからなかった。
- 7 そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。三年間、このいちじくの木に実を探しに来ているが、見つからない。だから、切り倒してしまいなさい。何のために土地まで無駄にしているのか。』
- 8 番人は答えた。『ご主人様、どうか、今年もう一年そのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥料をやってみます。
- 9 それで来年、実を結べばよいでしょう。それでもだめなら、切り倒してください。』」
- 10 イエスは安息日に、ある会堂で教えておられた。
- 11 すると、そこに十八年も病の霊につかれ、腰が曲がって、全く伸ばすことができない女の人がいた。
- 12 イエスは彼女を見ると、呼び寄せて、「女の方、あなたは病から解放されました」と言われた。
- 13 そして手を置かれると、彼女はただちに腰が伸びて、神をあげめた。
- 14 すると、会堂司はイエスが安息日に癒やしを行ったことに憤って、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。だから、その間に来て治してもらいなさい。安息日にはいけない。」
- 15 しかし、主は彼に答えられた。「偽善者たち。あなたがたはそれぞれ、安息日に、自分の牛やろばを飼葉桶からほどき、連れて行って水を飲ませるではありませんか。」
- 16 この人はアブラハムの娘です。それを十八年もの間サタンが縛っていたのです。安息日に、この束縛を解いてやるべきではありませんか。」
- 17 イエスがこう話されると、反対していた者たちはみな恥じ入り、群衆はみな、イエスがなされたすべての輝かしいみわざを喜んだ。
- 18 そこで、イエスはこう言われた。「神の国は何に似ているでしょうか。何にたとえたらよいでしょうか。」
- 19 それはからし種に似ています。ある人がそれを取って自分の庭に蒔くと、生長して木になり、空の鳥が枝に巣を作りました。」
- 20 再びイエスは言われた。「神の国を何にたとえたらよいでしょうか。」

- 21 それはパン種に似ています。女の人がそれを取って三サトンの粉に混ぜると、全体がふくらみました。」
- 22 イエスは町や村を通りながら教え、エルサレムへの旅を続けておられた。
- 23 すると、ある人が言った。「主よ、救われる人は少ないのですか。」イエスは人々に言われた。
- 24 「狭い門から入るように努めなさい。あなたがたに言いますが、多くの人が、入ろうとしても入れなくなるからです。
- 25 家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってから、あなたがたが外に立って戸をたたき始め、『ご主人様、開けてください』と言っても、主人は、『おまえたちがどこの者か、私は知らない』と答えるでしょう。
- 26 すると、あなたがたはこう言い始めるでしょう。『私たちは、あなたの前で食べたり飲んだりいたしました。また、あなたは私たちの大通りでお教えてくださいました。』
- 27 しかし、主人はあなたがたに言います。『おまえたちがどこの者か、私は知らない。不義を行う者たち、みな私から離れて行け。』
- 28 あなたがたは、アブラハムやイサクやヤコブ、またすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分たちは外に放り出されているのを知って、そこで泣いて歯ざしりするのです。
- 29 人々が東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます。
- 30 いいですか、後にいる者が先になり、先にいる者が後になるのです。」
- 31 ちょうどそのとき、パリサイ人たちが何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここから立ち去りなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」
- 32 イエスは彼らに言われた。「行って、あの狐にこう言いなさい。『見なさい。わたしは今日と明日、悪霊どもを追い出し、癒やしを行い、三日目に働きを完了する。
- 33 しかし、わたしは今日も明日も、その次の日も進んで行かなければならない。預言者がエルサレム以外のところで死ぬことはあり得ないのだ。』
- 34 エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことが。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。
- 35 見よ、おまえたちの家は見捨てられる。わたしはおまえたちに言う。おまえたちが『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』と言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。」

第14章

- 1 ある安息日のこと、イエスは食事をするために、パリサイ派のある指導者の家に入られた。そのとき人々はじっとイエスを見つめていた。
- 2 見よ、イエスの前には、水腫をわずらっている人がいた。
- 3 イエスは、律法の専門家たちやパリサイ人たちに対して、「安息日に癒やすのは律法にかなっているでしょうか、いないでしょうか」と言われた。
- 4 彼らは黙っていた。それで、イエスはその人を抱いて癒やし、帰された。
- 5 それから、彼らに言われた。「自分の息子や牛が井戸に落ちたのに、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者が、あなたがたのうちにいるでしょうか。」

- 6 彼らはこれに答えることができなかった。
- 7 イエスは、客として招かれた人たちが上座を選んでいる様子に気がついて、彼らにたとえを話された。
- 8 「結婚の披露宴に招かれたときには、上座に座ってはいけません。あなたより身分の高い人が招かれているかもしれません。
- 9 あなたやその人を招いた人が来て、『この人に席を譲ってください』と言うことになります。そのときあなたは恥をかいて、末席に着くことになります。
- 10 招かれたなら、末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『友よ、もっと上席にお進みください』と言うでしょう。そのとき、ともに座っている皆の前で、あなたは誉れを得ることになります。
- 11 なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」
- 12 イエスはまた、ご自分を招いてくれた人にも、こう話された。「昼食や晚餐をふるまうのなら、友人、兄弟、親族、近所の金持ちなどと呼んではいけません。彼らがあなたを招いて、お返しをすることがないようにするためです。
- 13 食事のふるまいをするときには、貧しい人たち、からだの不自由な人たち、足の不自由な人たち、目の見えない人たちを招きなさい。
- 14 その人たちはお返しができないので、あなたは幸いです。あなたは、義人の復活のときに、お返しを受けるのです。」
- 15 イエスとともに食卓に着いていた客の一人はこれを聞いて、イエスに言った。「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう。」
- 16 するとイエスは彼にこう言われた。「ある人が盛大な宴会を催し、大勢の人を招いた。
- 17 宴会の時刻になったのでしもべを遣わし、招いていた人たちに、『さあ、おいでください。もう用意ができましたから』と言った。
- 18 ところが、みな同じように断り始めた。最初の人是这样言った。『畑を買ったので、見に行かなければなりません。どうか、ご容赦ください。』
- 19 別の人はこう言った。『五くびきの牛を買ったので、それを試しに行くところです。どうか、ご容赦ください。』
- 20 また、別の人はこう言った。『結婚したので、行くことができません。』
- 21 しもべは帰って来て、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、そのしもべに言った。『急いで町の大通りや路地に出て行って、貧しい人たち、からだの不自由な人たち、目の見えない人たち、足の不自由な人たちをここに連れて来なさい。』
- 22 しもべは言った。『ご主人様、お命じになったとおりにいたしました。でも、まだ席があります。』
- 23 すると主人はしもべに言った。『街道や垣根のところに出て行き、無理にでも人々を連れて来て、私の家をいっぱいになさい。
- 24 言うておくが、あの招待されていた人たちの中で、私の食事を味わう者は一人もいません。』」
- 25 さて、大勢の群衆がイエスと一緒に歩いていたが、イエスは振り向いて彼らに言われた。

- 26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。
- 27 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。
- 28 あなたがたのうちに、塔を建てようとするとき、まず座って、完成させるのに十分な金があるかどうか、費用を計算しない人がいるでしょうか。
- 29 計算しないと、土台を据えただけで完成できず、見ていた人たちはみなその人を嘲って、
- 30 『この人は建て始めたのに、完成できなかった』と言うでしょう。
- 31 また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えようとして行くときは、二万人を引き連れて向かって来る敵を、一万人で迎え撃つことができるかどうか、まず座ってよく考えないでしょうか。
- 32 もしできないと思えば、敵がまだ遠くに離れている間に、使者を送って講和の条件を尋ねるでしょう。
- 33 そういうわけで、自分の財産すべてを捨てなければ、あなたがたはだれも、わたしの弟子になることはできません。
- 34 塩は良いものです。しかし、もし塩が塩気をなくしたら、何によってそれに味をつけるのでしょうか。
- 35 土地にも肥やしにも役立たず、外に投げ捨てられます。聞く耳のある者は聞きなさい。」

第15章

- 1 さて、取税人たちや罪人たちがみな、話を聞こうとしてイエスの近くにやって来た。
- 2 すると、パリサイ人たち、律法学者たちが、「この人は罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている」と文句を言った。
- 3 そこでイエスは、彼らにこのようなたとえを話された。
- 4 「あなたがたのうちのだれかが羊を百匹持っていて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。
- 5 見つけたら、喜んで羊を肩に担ぎ、
- 6 家に戻って、友だちや近所の人たちを呼び集め、『一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うでしょう。
- 7 あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。
- 8 また、ドラクマ銀貨を十枚持っている女の人が、その一枚をなくしたら、明かりをつけ、家を掃いて、見つけるまで注意深く捜さないでしょうか。
- 9 見つけたら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『一緒に喜んでください。なくしたドラクマ銀貨を見つけたから』と言うでしょう。
- 10 あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちの前には喜びがあるのです。」
- 11 イエスはまた、こう話された。「ある人に二人の息子がいた。
- 12 弟のほうが父に、『お父さん、財産のうち私がいただく分を下さい』と言った。それで、父は財産を二人に分けてやった。

- 13 それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものをまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して、財産を湯水のように使ってしまった。
- 14 何もかも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり、彼は食べることに困り始めた。
- 15 それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑に送って、豚の世話をさせた。
- 16 彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。
- 17 しかし、彼は我に返って言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が、なんと大勢いることが。それなのに、私はここで飢え死にしようとしている。』
- 18 立って、父のところに行こう。そしてこう言おう。「お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。」
- 19 もう、息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。」』
- 20 こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとへ向かった。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い、駆け寄って彼の首を抱き、口づけした。
- 21 息子は父に言った。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。』
- 22 ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。』
- 23 そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。
- 24 この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』こうして彼らは祝宴を始めた。
- 25 ところで、兄息子は畑にいたが、帰って来て家に近づくと、音楽や踊りの音が聞こえてきた。
- 26 それで、しもべの一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。
- 27 しもべは彼に言った。『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事な姿でお迎えしたので、お父様が、肥えた子牛を屠られたのです。』
- 28 すると兄は怒って、家に入ろうともしなかった。それで、父が出て来て彼をなだめた。
- 29 しかし、兄は父に答えた。『ご覧ください。長年の間、私はお父さんにお仕えし、あなたの戒めを破ったことは一度もありません。その私には、友だちと楽しむようにと、子やぎ一匹下さったこともありません。』
- 30 それなのに、遊女と一緒に、お父さんの財産を食いつぶした息子が帰って来ると、そんな息子のために肥えた子牛を屠られるとは。』
- 31 父は彼に言った。『子よ、おまえはいつも私と一緒にいる。私のものは全部おまえのものだ。』
- 32 だが、おまえの弟は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのは当然ではないか。』」

第16章

- 1 イエスは弟子たちに対しても、次のように語られた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この管理人が主人の財産を無駄遣いしている、という訴えが主人にあった。」

- 2 主人は彼を呼んで言った。『おまえについて聞いたこの話は何なのか。会計の報告を出しなさい。もうおまえに、管理を任せておくわけにはいかない。』
- 3 管理人は心の中で考えた。『どうしよう。主人は私から管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力はないし、物乞いをするのは恥ずかしい。』
- 4 分かった、こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、人々が私を家に迎えてくれるようにすればよいのだ。』
- 5 そこで彼は、主人の債務者たちを一人ひとり呼んで、最初の人に、『私の主人に、いくら借りがありますか』と言った。
- 6 その人は『油百バテ』と答えた。すると彼は、『あなたの証文を受け取り、座ってすぐに五十と書きなさい』と言った。
- 7 それから別のの人に、『あなたは、いくら借りがありますか』と言うと、その人は『小麦百コル』と答えた。彼は、『あなたの証文を受け取り、八十と書きなさい』と言った。
- 8 主人は、不正な管理人が賢く行動したのをほめた。この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢いのである。
- 9 わたしはあなたがたに言います。不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。
- 10 最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実であり、最も小さなことに不忠実な人は、大きなことにも不忠実です。
- 11 ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなければ、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょうか。
- 12 また、他人のものに忠実でなければ、だれがあなたがたに、あなたがた自身のものを持たせるでしょうか。
- 13 どんなしもべも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることとなります。あなたがたは、神と富とに仕えることはできません。」
- 14 金銭を好むパリサイ人たちは、これらすべてを聞いて、イエスをあざ笑っていた。
- 15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとするが、神はあなたがたの心をご存じです。人々の間で尊ばれるものは、神の前では忌み嫌われるものなのです。
- 16 律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音が宣べ伝えられ、だれもが力づくで、そこに入ろうとしています。
- 17 しかし、律法の一画が落ちるよりも、天地が滅びるほうが易しいのです。
- 18 だれでも妻を離縁して別の女と結婚する者は、姦淫を犯すことになり、夫から離縁された女と結婚する者も、姦淫を犯すことになります。
- 19 ある金持ちがいた。紫の衣や柔らかい亜麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
- 20 その金持ちの門前には、ラザロという、できものだらけの貧しい人が寝ていた。
- 21 彼は金持ちの食卓から落ちる物で、腹を満たしたいと思っていた。犬たちもやって来ては、彼のできものをなめていた。
- 22 しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。

- 23 金持ちが、よみで苦しみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懐にいるラザロが見えた。
- 24 金持ちは叫んで言った。『父アブラハムよ、私をあわれんでラザロをお送りください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすようにしてください。私はこの炎の中で苦しくてたまりません。』
- 25 するとアブラハムは言った。『子よ、思い出しなさい。おまえは生きている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しみもだえている。』
- 26 そればかりか、私たちとおまえたちの間には大きな淵がある。ここからおまえたちのところへ渡ろうとしても渡れず、そこから私たちのところへ越えて来ることもできない。』
- 27 金持ちは言った。『父よ。それではお願いですから、ラザロを私の家族に送ってください。』
- 28 私には兄弟が五人いますが、彼らまでこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らに警告してください。』
- 29 しかし、アブラハムは言った。『彼らにはモーセと預言者がいる。その言うことを聞くがよい。』
- 30 金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ。もし、死んだ者たちの中から、だれかが彼らのところに行けば、彼らは悔い改めるでしょう。』
- 31 アブラハムは彼に言った。『モーセと預言者たちに耳を傾けないのなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』」

第17章

- 1 イエスは弟子たちに言われた。「つまずきが起こるのは避けられませんが、つまずきをもたらす者はわざわざいす。
- 2 その者にとっては、これらの小さい者たちの一人をつまずかせるより、ひき臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれるほうがましです。
- 3 あなたがたは、自分自身に気をつけなさい。兄弟が罪を犯したなら、戒めなさい。そして悔い改めるなら、赦しなさい。
- 4 一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回あなたのところに来て『悔い改めます』と言うなら、赦しなさい。」
- 5 使徒たちは主に言った。「私たちの信仰を増し加えてください。」
- 6 すると主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があれば、この桑の木に『根元から抜かれて、海の中に植われ』と言うなら、あなたがたに従います。
- 7 あなたがたのだれかのところに、畑を耕すか羊を飼うしもべがいて、そのしもべが野から帰って来たら、『さあ、こちらに来て、食事をしなさい』と言うのでしょうか。
- 8 むしろ、『私の夕食の用意をし、私が食べたり飲んだりする間、帯を締めて給仕しなさい。おまえはその後で食べたり飲んだりしなさい』と言うのではないのでしょうか。
- 9 しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するのでしょうか。
- 10 同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行ったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』と言いなさい。」
- 11 さて、イエスはエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの境を通られた。

- 12 ある村に入ると、ツアラアトに冒された十人の人がイエスを出迎えた。彼らは遠く離れたところに立ち、
- 13 声を張り上げて、「イエス様、先生、私たちをあわれんでください」と言った。
- 14 イエスはこれを見て彼らに言われた。「行って、自分のからだを祭司に見せなさい。」すると彼らは行く途中できよめられた。
- 15 そのうちの一人は、自分が癒やされたことが分かると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、
- 16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリア人であった。
- 17 すると、イエスは言われた。「十人きよめられたのではなかったか。九人はどこにいるのか。」
- 18 この他国人のほかに、神をあがめるために戻って来た者はいなかったのか。」
- 19 それからイエスはその人に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」
- 20 パリサイ人たちが、神の国はいつ来るのかと尋ねたとき、イエスは彼らに答えられた。「神の国は、目に見える形で来るものではありません。」
- 21 『見よ、ここだ』とか、『あそこだ』とか言えるようなものではありません。見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。」
- 22 イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたが、人の子の日を一日でも見たいと願っても、見られない日が来ます。」
- 23 人々は『見よ、あそこだ』とか、『見よ、ここだ』とか言いますが、行ってはいけません。追いかけてもいけません。
- 24 人の子の日、人の子は、稲妻がひらめいて天の端から天の端まで光ると、ちょうど同じようになります。
- 25 しかし、まず人の子は多くの苦しみを受け、この時代の人々に捨てられなければなりません。
- 26 ちょうど、ノアの日に起こったのと同じことが、人の子の日にも起こります。
- 27 ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていましたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。
- 28 また、ロトの日に起こったことと同じようになります。人々は食べたり飲んだり、売ったり買ったり、植えたり建てたりしていましたが、
- 29 ロトがソドムから出て行ったその日に、火と硫黄が天から降って来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。
- 30 人の子が現れる日にも、同じことが起こります。
- 31 その日、屋上にいる人は、家に家財があっても、それを持ち出すために下に降りてはいけません。同じように、畑にいる人も戻ってはいけません。
- 32 ロトの妻のことを思い出しなさい。
- 33 自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。
- 34 あなたがたに言いますが、その夜、同じ寝床で人が二人寝ていると、一人は取られ、もう一人は残されます。
- 35 同じところで臼をひいている女が二人いると、一人は取られ、もう一人は残されます。」

- 37 弟子たちが、「主よ、それはどこで起こるのですか」と言うと、イエスは彼らに言われた。「死体のあるところ、そこには禿鷹が集まります。」

第18章

- 1 いつでも祈るべきで、失望してはいけないことを教えるために、イエスは弟子たちにたとえを話された。
- 2 「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。
- 3 その町に一人のやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私を訴える人をさばいて、私を守ってください』と言っていた。
- 4 この裁判官はしばらく取り合わなかったが、後になって心の中で考えた。『私は神をも恐れず、人を人とも思わないが、
- 5 このやもめは、うるさくて仕方がないから、彼女のために裁判をしてやることにしよう。そうでないと、ひっきりなしにやって来て、私は疲れ果ててしまう。』」
- 6 主は言われた。「不正な裁判官が言っていることを聞きなさい。
- 7 まして神は、昼も夜も神に叫び求めている、選ばれた者たちのためにさばきを行わないで、いつまでも放っておかれることがあるでしょうか。
- 8 あなたがたに言いますが、神は彼らのため、速やかにさばきを行ってくださいます。だが、人の子が来るとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」
- 9 自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。
- 10 「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。
- 11 パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。
- 12 私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』
- 13 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』
- 14 あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」
- 15 さて、イエスに触れていただくこと、人々は幼子たちまで連れて来た。ところが、弟子たちはそれを見て叱った。
- 16 しかし、イエスは幼子たちを呼び寄せて、こう言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。
- 17 まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」
- 18 また、ある指導者がイエスに質問した。「良い先生。何をしたら、私は永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」
- 19 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『良い』と言うのですか。良い方は神おひとりのほか、だれもいません。

- 20 戒めはあなたも知っているはずです。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。あなたの父と母を敬え。』」
- 21 するとその人は言った。「私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」
- 22 イエスはこれを聞いて、彼に言われた。「まだ一つ、あなたに欠けていることがあります。あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」
- 23 彼はこれを聞いて、非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。
- 24 イエスは彼が非常に悲しんだのを見て、こう言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。
- 25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」
- 26 それを聞いた人々は言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」
- 27 イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」
- 28 すると、ペテロが言った。「ご覧ください。私たちは自分のものを捨てて、あなたに従って来ました。」
- 29 イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。だれでも、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者は、
- 30 必ずこの世で、その何倍も受け、来たるべき世で、永遠のいのちを受けます。」
- 31 さて、イエスは十二人をそばに呼んで、彼らに話された。「ご覧ください。わたしたちはエルサレムに上って行きます。人の子について、預言者たちを通して書き記されているすべてのことが実現するのです。
- 32 人の子は異邦人に引き渡され、彼らに嘲られ、辱められ、唾をかけられます。
- 33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」
- 34 弟子たちには、これらのことが何一つ分からなかった。彼らにはこのことばが隠されていて、話されたことが理解できなかった。
- 35 イエスがエリコに近づいたとき、一人の目の見えない人が道端に座り、物乞いをしていた。
- 36 彼は群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事かと尋ねた。
- 37 ナザレ人イエスがお通りになるのだと人々が知らせると、
- 38 彼は大声で、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と言った。
- 39 先に行く人たちが、黙らせようとしてたしなめたが、その人はますます激しく「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と叫んだ。
- 40 イエスは立ち止まって、彼を連れて来るように命じられた。彼が近くに来ると、イエスはお尋ねになった。
- 41 「わたしに何をしてほしいのですか。」するとその人は答えた。「主よ、目が見えるようにしてください。」
- 42 イエスは彼に言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救いました。」
- 43 その人はただちに見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て、民はみな神を賛美した。

第19章

- 1 それからイエスはエリコに入り、町の中を歩いておられた。
- 2 するとそこに、ザアカイという名の人がいた。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。
- 3 彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることはできなかった。
- 4 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。
- 5 イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」
- 6 ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。
- 7 人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。
- 8 しかし、ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから奪し取った物があれば、四倍にして返します。」
- 9 イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。
- 10 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」
- 11 人々がこれらのことばに耳を傾けていたとき、イエスは続けて一つのたとえを話された。イエスがエルサレムの近くに来ていて、人々が神の国がすぐに現れると思っていたからである。
- 12 イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が遠い国に行った。王位を授かって戻って来るためであった。
- 13 彼はしもべを十人呼んで、彼らに十ミナを与え、『私が帰って来るまで、これで商売をきなさい』と言った。
- 14 一方、その国の人々は彼を憎んでいたため、彼の後に使者を送り、『この人が私たちの王になるのを、私たちは望んでいません』と伝えた。
- 15 さて、彼は王位を授かって帰って来ると、金を与えておいたしもべたちを呼び出すように命じた。彼らがどんな商売をしたかを知ろうと思ったのである。
- 16 最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』
- 17 主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』
- 18 二番目のしもべが来て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで五ミナをもうけました。』
- 19 主人は彼にも言った。『おまえも五つの町を治めなさい。』
- 20 また別のしもべが来て言った。『ご主人様、ご覧ください。あなた様の一ミナがございませぬ。私は布に包んで、しまっておきました。』
- 21 あなた様は預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取られる厳しい方ですから、怖かったです。』
- 22 主人はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はおまえのことばによって、おまえをさばこう。おまえは、私が厳しい人間で、預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取ると、分かっていたというのか。』

- 23 それなら、どうして私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうしておけば、私が帰って来たとき、それを利息と一緒に受け取れたのに。』
- 24 そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナをこの者から取り上げて、十ミナ持っている者に与えなさい。』
- 25 すると彼らは、『ご主人様、あの人はすでに十ミナ持っています』と言った。
- 26 彼は言った。『おまえたちに言うが、だれでも持っている者はさらに与えられ、持っていない者からは、持っている物までも取り上げられるのだ。』
- 27 またさらに、私が王になるのを望まなかったあの敵どもは、ここに連れて来て、私の目の前で打ち殺せ。』
- 28 これらのことを話してから、イエスはさらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。
- 29 オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニアに近づいたとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。
- 30 「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどこいて、連れて来なさい。
- 31 もし『どうして、ほどこくのか』とだれかが尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」
- 32 使いに出された二人が行って見ると、イエスが言われたとおりであった。
- 33 彼らの子ろばをほどこいていると、持ち主たちが、「どうして、子ろばをほどこくのか」と彼らに言った。
- 34 弟子たちは、「主がお入り用なのです」と言った。
- 35 二人はその子ろばをイエスのもとに連れて来た。そして、その上に自分たちの上着を掛けて、イエスをお乗せした。
- 36 イエスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。
- 37 イエスがいよいよオリーブ山の下りにさしかかると、大勢の弟子たちはみな、自分たちが見たすべての力あるわざについて、喜びのあまりに大声で神を賛美し始めて、
- 38 こう言った。「祝福あれ、主の御名によって来られる方、王に。天には平和があるように。栄光がいと高き所にあるように。」
- 39 するとパリサイ人のうちの何人かが、群衆の中からイエスに向かって、「先生、あなたの弟子たちを叱ってください」と言った。
- 40 イエスは答えられた。「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」
- 41 エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都のために泣いて、言われた。
- 42 「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら―。しかし今、それはおまえの目から隠されている。
- 43 やがて次のような時代がおまえに来る。敵はおまえに対して壘を築き、包囲し、四方から攻め寄せ、
- 44 そしておまえと、中におまえの子どもたちを地にたたきつける。彼らはおまえの中で、一つの石も、ほかの石の上に積まれたまま残してはおかない。それは、神の訪れの時を、おまえが知らなかったからだ。」
- 45 それからイエスは宮に入って、商売人たちを追い出し始め、

- 46 彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家でなければならない』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にした。」
- 47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長たち、律法学者たち、そして民のおもだった者たちは、イエスを殺そうと狙っていたが、
- 48 何をしたらよいのか分からなかった。人々がみな、イエスのことばに熱心に耳を傾けていたからである。

第20章

- 1 ある日、イエスが宮で人々を教え、福音を宣べ伝えておられると、祭司長たちと律法学者たちが長老たちと一緒にやって来て、
- 2 イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしているのか、あなたにその権威を授けたのはだれなのか、教えてくださいませんか。」
- 3 イエスは彼らに答えられた。「わたしも一言尋ねましょう。それに答えなさい。
- 4 ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、それとも人から出たのですか。」
- 5 すると、彼らは論じ合った。「もし天からと言え、どうしてヨハネを信じなかったのかと言うだろう。
- 6 だが、もし人からと言え、民はみな私たちに石で打ち殺すだろう。ヨハネは預言者だと確信しているのだから。」
- 7 そこで、「どこから来たのか知りません」と答えた。
- 8 するとイエスは彼らに言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに言いません。」
- 9 また、イエスは人々に対してこのようなたとえを話し始められた。「ある人がぶどう園を造り、それを農夫たちに貸して、長い旅に出た。
- 10 収穫の時になったので、彼は農夫たちのところに一人のしもべを遣わした。ぶどう園の収穫の一部を納めさせるためであった。ところが農夫たちは、そのしもべを打ちたたき、何も持たせないで帰らせた。
- 11 そこで別のしもべを遣わしたが、彼らはそのしもべも打ちたたき、辱めたうえで、何も持たせないで帰らせた。
- 12 彼はさらに三人目のしもべを遣わしたが、彼らはこのしもべにも傷を負わせて追い出した。
- 13 ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。そうだ、私の愛する息子を送ろう。この子なら、きっと敬ってくれるだろう。』
- 14 ところが、農夫たちはその息子を見ると、互いに議論して『あれは跡取りだ。あれを殺してしまおう。そうすれば、相続財産は自分たちのものになる』と言った。
- 15 そして、彼をぶどう園の外に放り出して、殺してしまった。こうなったら、ぶどう園の主人は彼らをどうするでしょうか。
- 16 主人はやって来て農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるでしょう。」これを聞いた人たちは、「そんなことが起こってはなりません」と言った。
- 17 イエスは彼らを見つめて言われた。「では、『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった』と書いてあるのは、どういうことなのか。

- 18 だれでもこの石の上に落ちれば、粉々に砕かれ、またこの石が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします。」
- 19 律法学者たちと祭司長たちは、このたとえ話が自分たちを指して語られたことに気づいた。それでそのとき、イエスに手をかけて捕らえようとしたが、民を恐れた。
- 20 さて、機会を狙っていた彼らは、義人を装った回し者を遣わした。イエスのことばじりをとらえて、総督の支配と権威に引き渡すためであった。
- 21 彼らはイエスにこう質問した。「先生。私たちは、あなたがお話しになること、お教えになることが正しく、またあなたが人を分け隔てせず、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。
- 22 ところで、私たちがカエサルに税金を納めることは、律法にかなっているのでしょうか、いないのでしょうか。」
- 23 イエスは彼らの悪巧みを見抜いて言われた。
- 24 「デナリ銀貨をわたしに見せなさい。だれの肖像と銘がありますか。」彼らは、「カエサルのです」と言った。
- 25 すると、イエスは彼らに言われた。「では、カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」
- 26 彼らは、民の前でイエスのことばじりをとらえることができず、答えに驚嘆して黙ってしまった。
- 27 復活があることを否定しているサドカイ人たちが何人か、イエスのところに来て質問した。
- 28 「先生、モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻を迎えて死に、子がいなかった場合、その弟が兄嫁を妻にして、兄のために子孫を起こさなければならない。』
- 29 ところで、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎え、子がないままで死にました。
- 30 次男も、
- 31 三男もその兄嫁を妻とし、七人とも同じように、子を残さずに死にました。
- 32 最後に、その妻も死にました。
- 33 では復活の際、彼女は彼らのうちのだれの妻になるのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですが。」
- 34 イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり嫁いだりするが、
- 35 次の世に入るのにふさわしく、死んだ者の中から復活するのにふさわしいと認められた人たちは、めとることも嫁ぐこともありません。
- 36 彼らが死ぬことは、もうあり得ないからです。彼らは御使いのようであり、復活の子として神の子なのです。
- 37 モーセも柴の箇所、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、死んだ者がよみがえることを明らかにしました。
- 38 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。神にとっては、すべての者が生きているのです。」
- 39 律法学者たちの何人かが、「先生、立派なお答えです」と答えた。
- 40 彼らはそれ以上、何もあえて質問しようとはしなかった。

- 41 すると、イエスが彼らに言われた。「どうして人々は、キリストをダビデの子だと言うのですか。
- 42 ダビデ自身が詩篇の中で、こう言っています。『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。
- 43 わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで。』』
- 44 ですから、ダビデがキリストを主と呼んでいるのです。それなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」
- 45 また、人々がみな耳を傾けているときに、イエスは弟子たちに言われた。
- 46 「律法学者たちには用心しなさい。彼らは長い衣を着て歩き回ることが好きで、広場であいさつされることや会堂の上席、宴会の上座を好みます。
- 47 また、やもめの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。こういう人たちは、より厳しい罰を受けるのです。」

第21章

- 1 イエスは目を上げて、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れているのを見ておられた。
- 2 そして、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨を二枚投げ入れるのを見て、
- 3 こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、だれよりも多くを投げ入れました。
- 4 あの人はみな、あり余る中から献金として投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っていた生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」
- 5 さて、宮が美しい石や奉納物で飾られている、と何人かが話していたので、イエスは言われた。
- 6 「あなたがたが見ているこれらの物ですが、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることのない日が、やって来ます。」
- 7 そこで彼らはイエスに尋ねた。「先生、それでは、いつ、そのようなことが起こるのですか。それが起こるときのしるしは、どのようなものですか。」
- 8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れて、『私こそ、その者だ』とか『時は近づいた』とか言います。そんな人たちの後について行ってはいけません。
- 9 戦争や暴動のことを聞いても、恐れてはいけません。まず、それらのことが必ず起こりますが、終わりはすぐには来ないからです。」
- 10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、
- 11 大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます。
- 12 しかし、これらのことすべてが起こる前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出します。
- 13 それは、あなたがたにとって証しをする機会となります。
- 14 ですから、どう弁明するかは、あらかじめ考えない、と心に決めておきなさい。

- 15 あなたがたに反対するどんな人も、対抗したり反論したりできないことばと知恵を、わたしが与えるからです。
- 16 あなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにも裏切られます。中には殺される人もいます。
- 17 また、わたしの名のために、すべての人に憎まれます。
- 18 しかし、あなたがたの髪の毛一本も失われることはありません。
- 19 あなたがたは、忍耐することによって自分のいのちを勝ち取りなさい。
- 20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。
- 21 そのとき、ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。都の中にいる人たちはそこから出て行きなさい。田舎にいる人たちは都に入ってはいけません。
- 22 書かれていることがすべて成就する、報復の日々だからです。
- 23 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。この地に大きな苦難があり、この民に御怒りが臨むからです。
- 24 人々は剣の刃に倒れ、捕虜となって、あらゆる国の人々のところに連れて行かれ、異邦人の時が満ちるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。
- 25 それから、太陽と月と星にしるしが現れ、地上では海と波が荒れどよめいて、諸国の民が不安に陥って苦悩します。
- 26 人々は、この世界に起ころうとしていることを予測して、恐ろしさのあまり気を失います。天のもろもろの力が揺り動かされるからです。
- 27 そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。
- 28 これらのことが起こり始めたら、身を起こし、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。」
- 29 それからイエスは、人々にたとえを話された。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。
- 30 木の芽が出ると、それを見て、すでに夏が近いことが、おのずから分かります。
- 31 同じように、これらのことが起こるのを見たら、あなたがたは神の国が近いことを知りなさい。
- 32 まことに、あなたがたに言います。すべてのことが起こるまで、この時代が過ぎ去ることは決してありません。
- 33 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。
- 34 あなたがたの心が、放蕩や深酒や生活の思い煩いで押しつぶされていて、その日が罨のように、突然あなたがたに臨むことにならないように、よく気をつけなさい。
- 35 その日は、全地の表に住むすべての人に突然臨むのです。
- 36 しかし、あなたがたは、必ず起こるこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈っていなさい。」
- 37 こうしてイエスは、昼は宮で教え、夜は外に出てオリーブという山で過ごされた。
- 38 人々はみな朝早く、教えを聞こうとして、宮におられるイエスのもとにやって来た。

第22章

- 1 さて、過越の祭りと言われる、種なしパンの祭りが近づいていた。

- 2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を探していた。彼らは民を恐れていた
のである。
- 3 ところで、十二人の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。
- 4 ユダは行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡すか相
談した。
- 5 彼らは喜んで、ユダに金を与える約束をした。
- 6 ユダは承知し、群衆がいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会を狙っていた。
- 7 過越の子羊が屠られる、種なしパンの祭りの日が来た。
- 8 イエスは、「過越の食事ができるように、行って用意をなさい」と言って、ペテロとヨハネ
を遣わされた。
- 9 彼らがイエスに、「どこに用意しましょうか」と言うと、
- 10 イエスは言われた。「いいですか。都に入ると、水がめを運んでいる人に会います。その人が
入る家までついて行きなさい。
- 11 そして、その家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があな
たに言っております』と言いなさい。
- 12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこに用意をなさい。」
- 13 彼らが行ってみると、イエスが言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。
- 14 その時刻が来て、イエスは席に着かれ、使徒たちも一緒に座った。
- 15 イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の
食事をするのを、切に願っていました。
- 16 あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をするこ
とは、決してありません。」
- 17 そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分
けて飲みなさい。
- 18 あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲む
ことは、決してありません。」
- 19 それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「こ
れは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いな
さい。」
- 20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたし
の血による、新しい契約です。
- 21 しかし見なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓の上にあります。
- 22 人の子は、定められたとおり去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわざい
です。」
- 23 そこで弟子たちは、自分たちのうちのだれが、そんなことをしようとしているのかと、互いに
議論をし始めた。
- 24 また、彼らの間で、自分たちのうちでだれが一番偉いのだろうか、という議論も起こった。
- 25 すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々に対し権威を
持つ者は守護者と呼ばれています。

- 26 しかし、あなたがたは、そうであってはいけません。あなたがたの間で一番偉い人は、一番若い者のようにになりなさい。上に立つ人は、給仕する者のようにになりなさい。
- 27 食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く人ではありませんか。しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。
- 28 あなたがたは、わたしの様々な試練の時に、一緒に踏みとどまってくれた人たちです。
- 29 わたしの父がわたしに王権を委ねてくださったように、わたしもあなたがたに王権を委ねます。
- 30 そうしてあなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食べたり飲んだりし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めるのです。
- 31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。
- 32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」
- 33 シモンはイエスに言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」
- 34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ、あなたに言っておきます。今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」
- 35 それから、イエスは弟子たちに言われた。「わたしがあなたがたを、財布も袋も履き物も持たせずに遣わしたとき、何か足りない物がありましたか。」彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。
- 36 すると言われた。「しかし今は、財布のある者は財布を持ち、同じように袋も持ちなさい。剣のない者は上着を売って剣を買いなさい。
- 37 あなたがたに言いますが、『彼は不法な者たちとともに数えられた』と書かれていること、それがわたしに必ず実現します。わたしに関わることは実現するのです。」
- 38 彼らが、「主よ、ご覧ください。ここに剣が二本あります」と言うと、イエスは、「それで十分」と答えられた。
- 39 それからイエスは出て行き、いつものようにオリーブ山に行かれた。弟子たちもイエスに従った。
- 40 いつもの場所に来ると、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。
- 41 そして、ご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。
- 42 「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」
- 43 〔すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。
- 44 イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。〕
- 45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに行ってご覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。
- 46 そこで、彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい。」

- 47 イエスがまだ話をしておられるうちに、見よ、群衆がやって来た。十二人の一人で、ユダという者が先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして近づいた。
- 48 しかし、イエスは彼に言われた。「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか。」
- 49 イエスの周りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言った。
- 50 そして、そのうちの一人が大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。
- 51 するとイエスは、「やめなさい。そこまでにしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。
- 52 それからイエスは、押しかけて来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。」
- 53 わたしが毎日、宮で一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力です。」
- 54 彼らはイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。
- 55 人々が中庭の真ん中に火をたいて、座り込んでいたので、ペテロも中に交じって腰を下ろした。
- 56 すると、ある召使いの女が、明かりの近くに座っているペテロを目にし、じっと見つめて言った。「この人も、イエスと一緒にいました。」
- 57 しかし、ペテロはそれを否定して、「いや、私はその人を知らない」と言った。
- 58 しばらくして、ほかの男が彼を見て言った。「あなたも彼らの仲間だ。」しかし、ペテロは「いや、違う」と言った。
- 59 それから一時間ほどたつと、また別の男が強く主張した。「確かにこの人も彼と一緒にだった。ガリラヤ人だから。」
- 60 しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。
- 61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主のことばを思い出した。
- 62 そして、外に出て行って、激しく泣いた。
- 63 さて、イエスを監視していた者たちは、イエスをからかい、むちでたたいた。
- 64 そして目隠しをして、「当ててみる、おまえを打ったのはだれだ」と聞いた。
- 65 また、ほかにも多くの冒瀆のことばをイエスに浴びせた。
- 66 夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まり、イエスを彼らの最高法院に連れ出して、こう言った。
- 67 「おまえがキリストなら、そうだと見え。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょう。」
- 68 わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。
- 69 だが今から後、人の子は力ある神の右の座に着きます。」
- 70 彼らはみな言った。「では、おまえは神の子なのか。」イエスは彼らに答えられた。「あなたがたの言うとおり、わたしはそれです。」

71 そこで彼らは「どうして、これ以上証言が必要だろうか。私たち自身が彼の口から聞いたのだ」と言った。

第23章

- 1 集まっていた彼ら全員は立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。
- 2 そしてイエスを訴え始めて、こう言った。「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることが分かりました。」
- 3 そこでピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは答えられた。「あなたがそう言っています。」
- 4 ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には、訴える理由が何も見つからない」と言った。
- 5 しかし彼らは、「この者は、ガリラヤから始めてここまで、ユダヤ全土で教えながら民衆を扇動しているのです」と言い張った。
- 6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、
- 7 ヘロデの支配下にあると分かったら、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころ、エルサレムにいたのである。
- 8 ヘロデはイエスを見ると、非常に喜んだ。イエスのことを聞いていて、ずっと前から会いたいと思い、またイエスが行うしるしを何か見たいと望んでいたからである。
- 9 それで、いろいろと質問したが、イエスは何もお答えにならなかった。
- 10 祭司長たちと律法学者たちはその場において、イエスを激しく訴えていた。
- 11 ヘロデもまた、自分の兵士たちと一緒にイエスを侮辱したり、からかったりしてから、はでな衣を着せてピラトに送り返した。
- 12 この日、ヘロデとピラトは親しくなった。それまでは互いに敵対していたのである。
- 13 ピラトは、祭司長たちと議員たち、そして民衆を呼び集め、
- 14 こう言った。「おまえたちはこの人を、民衆を惑わす者として私のところに連れて来た。私がおまえたちの前で取り調べたところ、おまえたちが訴えているような罪は何も見つからなかった。
- 15 ヘロデも同様だった。私たちにこの人を送り返して来たのだから。見なさい。この人は死に値することを何もしていない。
- 16 だから私は、むちで懲らしめたうえで釈放する。」
- 18 しかし彼らは一斉に叫んだ。「その男を殺せ。バラバを釈放しろ。」
- 19 バラバは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢に入れられていた者であった。
- 20 ピラトはイエスを釈放しようと思って、再び彼らに呼びかけた。
- 21 しかし彼らは、「十字架だ。十字架につける」と叫び続けた。
- 22 ピラトは彼らに三度目に言った。「この人がどんな悪いことをしたというのか。彼には、死に値する罪が何も見つからなかった。だから私は、むちで懲らしめたうえで釈放する。」
- 23 けれども、彼らはイエスを十字架につけるように、しつこく大声で要求し続けた。そして、その声がいよいよ強くなっていった。
- 24 それでピラトは、彼らの要求どおりにすることに決めた。

- 25 すなわち、暴動と人殺しのかどで牢に入れられていた男を願いどおりに釈放し、他方イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。
- 26 彼らはイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというクレネ人を捕まえ、この人に十字架を負わせてイエスの後から運ばせた。
- 27 民衆や、イエスのことを嘆き悲しむ女たちが大きな一群をなして、イエスの後について行った。
- 28 イエスは彼女たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣いてはいけません。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのために泣きなさい。
- 29 なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来るのですから。
- 30 そのとき、人々は山々に向かって『私たちの上に崩れ落ちよ』と言い、丘に向かって『私たちをおおえ』と言い始めます。
- 31 生木にこのようなことが行われるなら、枯れ木には、いったい何が起こるでしょうか。」
- 32 ほかに二人の犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために引かれて行った。
- 33 「どくろ」と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。また犯罪人たちを、一人は右に、もう一人は左に十字架につけた。
- 34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。
- 35 民衆は立って眺めていた。議員たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ったらよい。」
- 36 兵士たちも近くに来て、酸いぶどう酒を差し出し、
- 37 「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と言ってイエスを嘲った。
- 38 「これはユダヤ人の王」と書いた札も、イエスの頭の上に掲げてあった。
- 39 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。
- 40 すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。
- 41 おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」
- 42 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」
- 43 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」
- 44 さて、時はすでに十二時ごろであった。全地が暗くなり、午後三時まで続いた。
- 45 太陽は光を失っていた。すると神殿の幕が真ん中から裂けた。
- 46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。
- 47 百人隊長はこの出来事を見て、神をほめたたえ、「本当にこの方は正しい人であった」と言った。
- 48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、これらの出来事を見て、悲しみのあまり胸をたたきながら帰って行った。

- 49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた。
- 50 さて、ここにヨセフという人がいたが、議員の一人で、善良で正しい人であった。
- 51 ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた彼は、議員たちの計画や行動には同意していなかった。
- 52 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。
- 53 彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。
- 54 この日は備え日で、安息日が始まろうとしていた。
- 55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。
- 56 それから、戻って香料と香油を用意した。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。

第24章

- 1 週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。
- 2 見ると、石が墓からわきに転がされていた。
- 3 そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。
- 4 そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。
- 5 彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。
- 6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。
- 7 人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」
- 8 彼女たちはイエスのことばを思い出した。
- 9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。
- 10 それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、
- 11 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。
- 12 しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。
- 13 ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていた。
- 14 彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。
- 15 話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。
- 16 しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。
- 17 イエスは彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。

- 18 そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」
- 19 イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。「ナザレ人イエス様のことで、この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。
- 20 それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。
- 21 私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、
- 22 仲間の女たちの何人かが、私たちを驚かせました。彼女たちは朝早く墓に行きましたが、
- 23 イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、彼らはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。
- 24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」
- 25 そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。
- 26 キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのではありませんか。」
- 27 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。
- 28 彼らは目的の村の近くに来たが、イエスはもっと先まで行きそうな様子であった。
- 29 彼らが、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もすでに傾いています」と言って強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた。
- 30 そして彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。
- 31 すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。
- 32 二人は話し合った。「道々お話しくくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。」
- 33 二人はただちに立ち上がり、エルサレムに戻った。すると、十一人とその仲間が集まって、
- 34 「本当に主はよみがえって、シモンに姿を現された」と話していた。
- 35 そこで二人も、道中で起こったことや、パンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を話した。
- 36 これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。
- 37 彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。
- 38 そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。
- 39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」
- 40 こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。
- 41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

- 42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、
- 43 イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。
- 44 そしてイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたと一緒にいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」
- 45 それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、
- 46 こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、
- 47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、
- 48 あなたがたは、これらのことの証人となります。
- 49 見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」
- 50 それからイエスは、弟子たちをベタニアの近くまで連れて行き、手を上げて祝福された。
- 51 そして、祝福しながら彼らから離れて行き、天に上げられた。
- 52 彼らはイエスを礼拝した後、大きな喜びとともにエルサレムに帰り、
- 53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。